

主要検討課題のポイント(案)

	課題	課題の概要、施策のねらい	主な論点
目標体系	■ 地目別面積目標等目標体系	(課題) ● 今後想定される人口減により開発圧力がさらに低下 ● 低未利用地等の増大、国土管理の質の低下 (施策のねらい) ● 適切な地目別面積とその管理水準等を提示 → 国土の選択的管理	● 地目別面積目標を含む目標体系全体の在り方 ● 合計が国土面積になる形式の目標を設定する必要性 ● 地目の分け方の再検討 増大した「その他」の取り扱いの検討 「道路」等の検討 ● 地目毎の低未利用地の分離 森林、農用地、宅地
国土の管理	■ 国土の選択的管理	(課題) ● 価格の低迷、労働力の減少・高齢化等による耕作放棄地、施業放棄森林の増大 (施策のねらい) ● 管理水準に濃淡を設ける等限られた資源を効率的に投入し、国土の適切な管理へ誘導	● 森林・農用地の量・質の必要性(現状・将来) 食料・木材生産の安定供給に必要な農地・森林の整備 多面的、公益的機能の高度発揮のための農地・森林の保全 ● 地形や人口等地域特性に応じた、資源低投入型の国土管理のあり方 放置人工林等の天然林化(針広混交林化)、農用地の粗放管理の妥当性
	■ 国土資源の国民的経営＝多様な主体の参加＋国内資源の利用促進	(課題) ● 森林、農地の多面的機能は広く国民が享受しているが、その保全管理は集落の取組として農林業者を中心に行われている ● 過疎化・高齢化等により集落機能が低下し、森林、農地の適正な管理に支障 (政策のねらい) ● 地域住民のみならず、広く国民がその保全管理に参画することによって適切な国土資源の管理に資する	● 地域政策や環境政策との連携 ● 森林や農業の多面的機能の地域へのメリット化 ● 所有者等が管理することにより直接受ける経済的な便益、それにより地域住民・国民が受ける公益的な便益 ● 国土資源を管理することにより経済的な便益を受ける緑の雇用等の担い手対策、公益的な便益を受ける多様な参画主体の育成 ● 所有者等以外の管理への参画の場合の管理手法 → 国土の選択的管理

都市的土地利用の集約化等	■ 都市的土地利用の整序・集約化と自然環境の再生・活用	都市の郊外部における拡大・拡散した土地利用の整除・集約化、自然環境の保全・再生 ↓ ●生活の質、環境の質の高い田園居住環境の実現 ●環境負荷の低減 ●地域の活力の維持向上 ●都市基盤等の維持管理コストの低減	●集約化の理念、必要性(国土利用計画で集約化を記述する理由) ●あるべき集約化の姿(地域別に提示) ・大都市においては、土地利用の整除と自然環境の保全・再生によって、郊外部の生活環境、自然環境の向上を図る ・中小都市においては、郊外部の土地利用規制によって都市的土地利用の集約化によって、中心市街地の活性化と都市基盤コストの低減、良好な農村地域の形成を図る ●集約化の実現方策
国土利用の質的向上	□ 安全で安心できる国土利用(土地利用誘導と防災対策)	(課題) ●人口減少、高齢化に伴う地域コミュニティの弱体化 ●影響・混乱が国内外に及ぶ大規模災害への対応 ●頻発する集中豪雨による被害の増加 ●土地利用の拡散等に伴う災害危険地域の増加(施策のねらい) ●防災基盤整備による被害発生防止から、総合的なリスク管理へ(防災基盤整備、情報提供、土地利用誘導等の総合対策) ●自助・共助を重視した地域防災力の強化と支援 ●土地利用の規制・誘導等のソフト対策の積極的推進	●総合的なリスク管理について、防災基盤整備、情報提供、土地利用誘導等の各種施策の総合化のあり方について地域類型別に示す。 ●土地利用誘導等のソフト対策を主体に対応していく災害危険地域の考え方、及び規制誘導のあり方 ●地域で合意形成を図る枠組みづくり(都道府県計画の活用)等
	□ 自然のバイオネットワークの形成	●余剰空間を活用した生物の生息・生育空間である緑、水の連続性の確保 ●自然界の物質循環への負荷軽減を目指すバイオマス等の循環利用 ●施策の総合化による推進力の向上	●ネットワークの必要性、目標の設定等施策のねらいの妥当性 ●推進体制の構築、データ整備等国が行うべき必要な実現手段、施策 ●国土利用面での支援方策 ・バイオマス等の循環利用を国土利用面から支援する方策を検討 ●地域別イメージ ・地域類型ごとに中心的目標、施策の在り方を検討

国土利用の質的向上	☐ 土地利用と景観(ランドスケープ)	美しい国土の風景や自然環境の毀損の懸念 ●無秩序な土地利用 ●管理の行き届いていない国土面積の増加 ●自然との調和を無視した開発 →土地利用の適正化と自然環境の保全	●「美しさ」の理念・必要性 ●国土計画でランドスケープを保全する理由 ●保全すべきランドスケープ ・大都市、観光、歴史的価値、文化的価値等、ランドスケープを良好に維持するエリアを優先付けする ・維持する主体・財政のない地域のランドスケープの保全を支援する
	☐ 国内の持続可能性を高める国土利用	●食料の安全供給のために海外に依存する食料生産の場を国内に移転 ●国内の有機物質の循環を活性化することにより農地等国土の有効利用の促進 ●国土の有効利用による国土保全、景観形成、雇用確保の推進	●生産の場が国内に存在する必要性、目標等の内容の妥当性 ●下水汚泥、畜産廃棄物の農地還元、木質燃料の普及等有機物質の循環性を高める実現手段、施策
	☐ 流域圏	(課題) ●流域に関する諸課題を調整する仕組みの欠如 ●水源地域等の国土管理の担い手不足 ●人と水や自然との係りが薄れたことによる流域意識・上下流意識の希薄化 (施策のねらい) ●水・土砂管理、国土資源管理、自然環境の保全・再生等の諸課題を総合的に対応するため流域などの自然の単位に着目した国土管理を推進する。	●五全総の流域圏の考え方(水管理及び国土資源管理の圏域としての流域圏)に、エコロジカルネットワークの形成など自然再生の施策を追加 ●流域に関する諸課題を調整する仕組みの一つとして、流域単位の総合的・広域的な土地利用計画の必要性 ・土地利用の配置とバランス、連携調整の枠組みづくり ・広域地方計画(仮称)、国土利用計画(都道府県計画)の活用と策定支援 ●上下流連携、NPO等の活動支援